

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	有限会社 シエナリゾート グループホーム ことぶき()	評価実施年月日	平成20年11月21日
評価実施構成員氏名	施設長 小野寺 管理者 小野寺 計画作成担当者 小野寺 介護主任 高橋 介護員 渡辺 介護員 石田 介護員 田中	介護員 山本 介護員 工藤 介護員(夜勤専門員) 加藤 介護員(夜勤専門員) 垣内中 介護員(調理員) 濱林	
記録者氏名	介護主任 高橋	記録年月日	平成20年12月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念 私たちは一人ひとりに寄り添い地域と交流しながら安心の暮らしを支えます。	優しい... 暮らしは愛 ほほえみ... 楽しくおだやか あんしん... より健やかにしあわせに
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々の場面において優しく接しおだやかな一日をおくることができるそして安心の生活をフォローする様に取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	来所されるご家族には最近の生活の様子を伝えたり地域ご近所には折りに触れて行事等に参加してもらい乍ら、日常的に生活の様子を見て戴きお付き合いさせて戴いている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	いつもご近所の人と挨拶したり、気軽におしゃべりしたりしている。ベランダから気軽に入ってもらって戴き物(季節のお花、介護用消耗品など)をしたり日常のお付き合いができています。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	朝日地区市民委員会主催の運動会行事に参加したり町内会の観桜会、焼肉昼食会に招かれたりしていつも交流することに努めている。	朝日市民委員会(運動会)H20.8.10(日) 3-21町内会 観桜会 H20.5.11(日)
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	近所の老夫婦がここはどうゆう人が生活できるのかなど具体的なことを相談されたり将来にむけて役立てる様アドバイスしたりしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	職員は、意義を良く理解し、毎日の意識あわせ、振り返り、見直しを継続し乍ら質の向上と確保に努める。	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	推進会議では日常生活上の状況を報告したり近隣火災(5条20H20.3)の教訓などのご指導をうけたりして、万一のときに備える。	H20.3火災事故一酸化炭素中毒死)避難する時は頭からすっぽりかぶれる袋などをいつも用意していることは有効。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	特に包括支援センター(職員)との情報交換などを行いサービスの質の向上に努めるとともに地域の社会資源としての役割をになう。	空床の状況などの情報提供をする。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	現在は制度活用者はいないが、この種制度について研修があれば職員に学ばせ、これらを活用支援できるようにしたい。	権利擁護セミナー(20.2.23(土)) 主催旭川市弁護士会に参加した(1名)
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	身拘ゼロ推進委員会(18.12設置)は、随時に適時に学ぶ機会を得ており、身拘、虐待、防止ゼロを徹底していく(倫理綱領)。	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約(解約)は、十分な説明を行い、理解を得る様に努めている。	栄養の経口摂取など不可能状態になることをはじめとして病状の急変悪化、不測の事故によるケガなど中・長期の医療機関への入院は1M以上をめどに理解、納得を得る説明(担当Dr、MSWとの情報収集)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご本人よりの意見、不満、苦情などへの対応は、その都度汲み上げて、日常のケアや生活に反映できる様に努力する。		ご意見箱(19.10.31設置)ご意見、苦情の出し易い働きかけ。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	積極的に報告する様にいつも心がけている。ご家族来訪時は、その都度又は、適時に心身の状況の変化状況などをおはなしする。		あらゆる接点での暮らしぶりや、健康状態の変化などを口頭、TEL。金銭についての出納は定期にご報告する。(手紙など)
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からの意見、不満、苦情などは真摯に受け止め、より良い生活向上に反映させる。		ご意見箱(19.10.31設置) ご家族の意見は、課題を見極め検討を加え運営に反映している。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議、朝ミーティング、ミニカンファ、随時ミーティング、カンファなど意見を汲み上げその都度反映させる。		月1回以上の職員主体ミーティング、月1回以上の経営者(オーナー)会議開催で職員意識、意見に反映させる。(モチベーションを保ち高める)
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	余裕は少ないが柔軟に対応できるよう配慮する。急変対応は管理者等が体制をとることが多い。		時間外、夜間(深夜早朝)対応公休者でも柔軟勤務対応可能な心構えをしておく。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職者は最小限に抑える努力をしている。 異動はユニット間の交代だが最小限にする。		H20年度離職者なし。(20.12.1現在) H19年度(4月~3月)離職者5名、採用者5名。 H18年度(4月~3月)離職者2名。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	各職員が自らの経験などについて理解し計画をしてなるべく多くの職員が研修に受講できるようにして、研修後は報告書を作成している。	毎月の会議で研修会で受講した報告書を発表出来る場を与えていきたい。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	他GHの見学、研修会での事例検討の場に参加し、意見交換をし、職員育成に役立て質の向上に励んでいる。	職場内で行き詰まっている日頃の悩みなどをスムーズに解消できる様取り組んでいきたい。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	職員のストレスや疲労について気を配り気分転換できる休憩室の確保し、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。	他のGHとの交流、親睦を図れる機会を多くつくって行きたい。
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	向上心をもてる職場環境を作り資格取得に向けた支援を行い、職場内で活かせる環境づくりに努めている。	研修日程にあったシフト割りを実施している。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	本人の思いや、不安、おかれている状況を把握し、話しを良く聞き理解し、信頼関係をつくっている。	利用者や家族が来所し、生活状況について相談を聴き安心してもらえる関係づくりをする。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	ご家族が求めているものを理解し、今何に困っているのか十分聞き次の相談につなげている。	家族の苦労やこれまでの経緯についてゆっくり話を聞いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の思い状況を確認し、信頼関係を築きながら必要なサービスを可能な限り対応している。		他のサービス提供も取り入れ相談に対応したいと思います。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の安心と納得が必要なのでご本人、家族が何度も訪問していただき雰囲気馴染める様工夫する。		事業所に来て短時間でも過ごすなど利用に移っていけるよう支援する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人の思いを共感し、理解し共に暮らす同士として、支え合っていく。		お互いが協働しながら、穏やかな生活が送れる様、共に支え合う。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の思いに寄り添いながら、情報共有に努め、共に支え合う関係を築く。		ご家族と共に本人を支える姿勢で、一緒に考えていける人間関係を築いていく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の関係が、より良く築いていける様に支援していく。		本人、家族の状況を見極めながら、外出・外泊で、一緒に過ごし、より良い関係を築く。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人・友人など、馴染みの人との関係を継続できる支援をしている。		行きつけの美容室やお店に行き続けている。利用者一人ひとりの継続的な交流に働きかけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係がうまくいく様に、みんなで楽しく過ごせる場面作りをする様に支援している。		毎日のお茶の時間は、職員も一緒になって多くの会話をし、関わりあいを持っている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用終了後も、行事に招待したり、気軽に遊びに来てもらえるような関係を大切にしている。		サービス終了後でも、相談や支援に応じ、継続的な付き合いが出来る様心掛ける。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、思いや希望が叶えられる様に、本人(ご家族)本位に意向をくみ取る。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの暮らし方、生活歴の把握に努めている。		本人の為の生活に活かしている。プライバシーへの配慮を忘れない。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	暮らしの状況と生活リズムの配慮に努める。出来ることに注目し本人の全体像をつかむ。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日頃の関わりの中で、ご本人の暮らしを良くする為の、希望や意向を反映したプランを計担を中心にチームで作る。(意見交換、モニタリング、ミニカンファ)		ご本人のより良い暮らしを実現する為の個別プランを家族と話し合い希望を汲み上げる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	心身の状況悪化に対応した見直しなど本人、ご家族と話し合い乍ら現状に即したものにしている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子、毎日の気づき、工夫などの情報の共有個別(ケース記録等)に実践出来るプランに反映させる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人とご家族さんとの外泊(温泉旅行)、外泊(お買い物・お墓参り・自宅へ帰り過ごすなど)詩吟教室などの趣味活動など、家族さんと共に支援している。		季節ごとのドライブ(イチゴ狩り・花見・紅葉など)、個々に合わせたお出かけ(買い物・美容院・神社など)を支援している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	南消防署と町内の方の協力により、防火避難訓練を連携し実施している。二条交番には、施設の見取り図、職員名簿を提出しています。		地域の方との交流として、夏祭り、もちつきなどの行事に参加してもらっています。体調、状態をみて、もっと外出したりいろいろな地域の方とも交流していきたいです。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービス活用支援は特別していません。必要に応じて、色々な支援を取り入れたいです。		旭川市保健福祉サービスや社協ボランティアを、積極的に利用していきたいと思っています。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	豊岡、東旭川地域包括支援センター、東光、千代田地域包括支援センターとは情報交換をしたり、協力関係を築いている。		中央地区包括支援センターとも連携を図りたいと考えています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所前からのかかりつけ医による継続的医療を受けることができ、本人が安心できるように支援しています。		受診後には、家族さんに診断内容を報告し、介護職員は、受診結果をケース記録に記載して、職員全員が把握できる様にしています。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関は、認知症の専門医でなくても理解をもち、適切な指示や助言をしてもらっていると信頼しています。		認知症専門医に治療を受けている方もいて、今後も指導を受けられるよう支援する。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	施設長が准看護師なので、日常の健康管理や、夜間でも報告、相談、指導を仰ぎます。		協力医療機関は、24時間対応可能です。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院内容により早期退院できる利用者には病院関係者、家族さんと話し合い、対応可能な段階で、退院できるよう相談しています。		本人が安心できるようお見舞いにも行き、馴染みの関係を断ち切らないようにしている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化に伴い、対応出来る最大ケアについて説明をし、それを踏まえた上で家族の要望に応えるよう支援する。		日常の健康管理と急変時に対応する。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期は対応していない。		終末期は対応していませんが、職員、家族と共にターミナルケアの理解と関心を深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他の事務所に移られる前に関係者の方へ本人の詳しい情報、支援状況を渡し、その方の尊厳を失わない様にしています。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個々の考えを尊重して、思いやりの気持ちを持って接する様に心がけています。個人情報もれのないよう秘密保持を徹底する。</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>訪問販売のパン屋さん(パン吉)が月1回来てくれて、自分でパンをえらび買っています。希望時は、一緒にスーパーへ買い物に行き、自分のほしい物を買っています。</p>		
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者さんのペースに合わせて生活を支援しているつもりでも、職員の都合に合わせてもらっている事が多々あるので、気をつけていきたい。</p>		<p>一人ひとりのペースに合わせて、ゆとりのある生活支援を提供したいと思います。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>近所の床屋さんへの同行、美容室の定期的な訪問など日常の身だしなみや、オシャレの支援をしています。</p>		
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食前(おしぼり、お茶、水、エプロン)などの準備、食後のおぼん拭き、食器拭きなど、お手伝いの見守りをしながら支援する。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	コーヒー、おやつなど個別に対応し、皆さんが日常的に楽しめるように支援しています。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄の仕方は違うのでそこを理解し、安心して排泄できるように支援する。その他に、トイレの誘導、声かけをし、不快な思いをさせないように努力する。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週に2回ほどの入浴の支援をしています。入浴の順番、拒否者への声かけなど色々な対応もしています。		入浴の嫌いな方もいるので、積極的に声をかけ、安心して入浴していただける様に支援する。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	時間ごとの居室への巡回、安眠を支援するための見守りなど、一人ひとりがゆっくりと休息できるように支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	もやしの芽取り、餅つき、おぼん拭き、漬物作りのお手伝いなど、一人ひとりが自由に参加して楽しめるように支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	パン屋さんの訪問販売があり、自分で好きなものを選んで買うことができる。また職員付き添いで近所のスーパーまで行き、自分で買う楽しみを支援する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>天候の良い日は皆でご近所の散歩、日中は日当たりの良い場所でお茶を飲んだりなど実施している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>個別の外出は今のところあまり実現していない。ご家族が同伴の場合は旅行や外泊もある。その場合は服装、持ち物、薬の準備などを支援する。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>	<p>電話の取次ぎや電話をかけたいときはいつでも使えるように支援中。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>いつでも訪問していただける様な雰囲気や対応を心がけている。本州の方が来ていただいたときもご本人と楽しく過ごされるように心がける。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員が身体拘束の内容を理解して、日常の拘束が無くなる様なケアを実践する。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>個人の意見を尊重しながら日中、夜間と不穏な気分にならない様に見守り、声かけなどをし、施錠をしないで安心な様に支援する。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>昼夜共に、見守り易い位置にいて様子を観察できる様工夫している。夜間は、定時巡回と、随時巡回(気配、物音、水音)して、生活の安全に配慮中。</p>		<p>入居者の経年変化(高齢化)に対し、より注意深く見守ってきたい。</p>
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>薬、洗剤、刃物などの管理に充分配慮し危険の未然防止に取り組んでいる。</p>		<p>個人の所有物も家族の協力のもと、入居者の持ち物を細かく把握し、一人ひとりの状態に応じて管理していきたい。</p>
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、防止対策を行うように取り組んでいる。自室での転倒、尻もち転倒などがある。(ヒヤリハット)誤嚥のリスクの高い人の食事介助、服薬介助について安全介護を徹底する。</p>		<p>自立して食事を摂れる人にも注意をはらい、変化を見落とさないようにしたい。</p>
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>特に夜勤帯における急変、事故対応について症状により応急処置、救急救命処置を行うと共にバイタル測定ほか症状は状況により救急隊の要請、家族への連絡、上司報告などを行う。</p>		<p>急変時、家族への連絡が取れない事があった。緊急の連絡先の確認を細かめに行っていきたい。</p>
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>昼夜問わず避難誘導ができるように普段からの心構えを準備していく。普段から近隣、地域の人びとの協力を得られる様にする。</p>		<p>消火訓練避難訓練は南消防署指導により地域住民近隣と連携し協力を得て実施した。合計46名参加(20、5 / 28(水))</p>
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>家族との信頼関係づくりは普段から築いており起こり得るリスクについていつも率直に話し合っている。見直しも随時に行う。</p>		<p>状況変化に対応した説明をいつも心掛ける。特に夜間自室での転倒などのリスク(ヒヤリハット)高く率直に話す。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		<p>(目安) $45\text{kg} \times 30\text{カロリー} = 1,350\text{cal}$ $50\text{kg} \times 30\text{カロリー} = 1,500\text{cal}$ (目安) 水分摂取量 1日当り高齢者(最低必要量) 1,300cc</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		<p>20年ノロウイルス対応研修受講1名参加20.11.18(火) インフルエンザ予防接種(20年11月中に)支援 結核検診(20.8.19(金))検診車 6名</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎日の調理用具等の衛生管理を徹底する。新鮮で安心な食材の計画的取得、使用している。(食中毒予防、三原則実践中 1.手洗い 2.加熱 3.迅速)</p>		<p>台所・調理用具の清潔、衛生管理方法取り決めあり実践中。包丁、まな板、ふきんの漂白(マイキッチンブリーチ)計画した食材の買物など。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>いつでも誰でも入り易く明るい玄関まわりの工夫をしている。</p>		<p>玄関に邪魔にならない程度の季節の花等を配慮して飾る。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間はいつも居心地の良い、安心感のある過ごし易い工夫を行う。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>1人1人の居場所、3条本通側に藤椅子1脚と1人用椅子を配慮し、外の様子や仲良しと思いいいに過ごすことが出来る。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人や家族と相談しながら使いなれた家具、好みの物を置く事で居心地よく過ごすことが出来る。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>空気の入替えや温度調整にいつも気を配っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>階段の滑り止め、手すり、各テーブル内の間隔椅子とソファ間の間合い等にいつも注意し、つまづきや接触に注意してる。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>混乱を招く様な環境の原因に気が付けば随時工夫したり、改善していく。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>外回りにはプランター花鉢を飾って手入れしたり、ベランダではお花畑や畑が近くにあり育てたり水やりをして楽しむ。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>個々の思いや願い等、気持ちを組み取り一諸に暮らしている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>ゆったりとした時間が流れ暮らしている場面もある。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>個人、個人のマイペースに暮らす中でさりげない援助をしている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>職員と共に生きいきとした生活ができています。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>町内、近隣への散歩、ドライブ外出お祭りの屋台見物などたまに回転鮎し、ラーメン、外出など行きたいところへも行ける。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>毎朝のバイタルチェックなど心身の状況の変化に対応したくらしを過ごせる。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>安心のくらしを支えるために、状況、要望に柔軟に支援する。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>不安などの状況を常に良く聴くことで家族の信頼を得る。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>近所、近隣の方が時々訪問してくれ行き来がある。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	推進会議、地域、町内の方々とのつながりが広がり深まっている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	概ねはつらつ元気で、目くばり気配りで働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	生活のパートナーとして、概ね満足していただいている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	ご家族様との信頼関係築いており、認められていると思料する。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

地域、近隣とのふれあいがあり、楽しくおだやかに暮らし続けていける様、日々の活動を支えていく。そしてご本人とご家族、職員ともどもに人生の喜びを得る。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所) ・ (小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	有限会社 シエナリゾート グループホーム ことぶき ()	評価実施年月日	平成20年11月21日.
評価実施構成員氏名	施設長 小野寺 管理者 高木 計画作成担当者 高木 介護員 佐藤 介護員 藤田 介護員 長岡 介護員 倉本 介護員 細川 介護員 菊池	介護員(夜勤専門) 介護員(調理員)	庄内 能代
記録者氏名	管理者 高木	記録年月日	平成20年12月1日.

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念:”私たちは一人ひとりに寄り添い、地域と交流しながら、安心の暮らしを支えます。優しいくらしは愛、ほほえみ、楽しくおだやかあんしん、より健やかに幸せに。”	日常的に教育機会を設けていきたいと思っています。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日のミーティングにおいて、ペースにあわせた優しい対応、おだやかで安心な生活が送れるように職員と話し合っています。	穏やかな気持ちで、一緒に生活して行きたいと考えています。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	パンフレットや掲示板に明示しており、家族にもそのつど様子を伝えながら同意を得ている。地域には折りに触れ、イベントなど参加などで理解をいただいております。	町内会、近隣と深くふれあいをもち、安心な暮らしを支えます。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の方には気軽に挨拶を交わし、町内会活動には参加し、来所もしていただき、一緒に楽しめる行事も行っています。運営推進会議構成員にも協力を頂いております。	いざと言う時には、近隣の人々が協力してくれるよう避難訓練など一緒に体験しています。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会行事には全て参加して交流をしています。近隣の保育園の園児を招いて餅つきをしたり、夏祭りに町内の方々を招待したり、町内にあるラーメン屋に出かけて外食したり、交流に努めています。	入居者が参加できる行事を増やしたいと思います。(百人一首など)
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内の集会時や地域の人々から認知症の相談を受け、認知症への理解を求めて説明しています。	町内の方々を対象に、介護予防や認知症に対する理解など、話し合う場を設けたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の意義を全員で理解し、全員で自己評価に取り組んでいます。		外部評価の結果は改善に向けて計画を立て、取り組んでいます。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、事業所の取り組み内容を説明して、理解してもらい、具体的な防火対策やいざという時の避難場所等についての意見を頂いております。		運営推進会議で、外部評価の結果を公表し、構成員の方々の意見、要望を受け入れ、サービスの向上に活かしています。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者との研修会には必ず参加して、実態を把握するようにしています。		市担当者との交流を深め、事業所の実情などを伝えていきたいと思えます。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度は理解しており、今後必要と思われる方には、活用できるよう支援していきたいと思えます。		成年後見制度の研修会にも参加しており、認識を深めたいと思えます。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	普段から入居者に対する言葉づかい、表情・態度など話し合っています。身体拘束・虐待は行わない様、職員同士で意識を持っております。		玄関の施錠は家族にも説明し、理解を求めています。日中は施錠しないケアに努めたいと思っています。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書の明示、説明をし、家族からの十分なアセスメントを行い納得の上、不安のない状態で入所してもらっています。緊急時、長期入院が必要な時の退去の目安、今後の受け入れ先についても、家族、関係者と十分に話し合いをしています。		入所時に、今後の重度化や医療体制についての話し合いをしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者の態度や言葉から、心理を見極めて対応していく様、指導しています。</p>		<p>家族同士で話し合える時間を設け、意見や苦情を伝えてもらえる様、取組んでいきたい。</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>家族の訪問時には、普段の生活ぶりや体調を常に報告しています。金銭管理については出し入れの明細を、毎月渡して報告しています。</p>		<p>職員の異動の時は、家族にも報告しています。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族からの相談、苦情などは真摯に受け入れ、対応は管理者が速やかに行っています。ご意見箱も設置しています。</p>		<p>外部への相談がある場合、公的窓口の紹介も行っています。</p>
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティング時や職員会議時に、意見・要望を常に聞き入れ、回答を伝える様にしています。職員が提案を出しやすい環境、雰囲気づくりに配慮しています。</p>		<p>個別相談の時間を設けて、意見・要望を聞き、反映していきたいと思っています。</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>勤務シフトは職員の希望に配慮し、急な休みには交代を取り、無理の無い様にしていきます。夜間の緊急対応などについては管理者が柔軟な体制を取っています。</p>		<p>行事、外出時には、余裕のある人員確保をしています。</p>
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員異動の時には、入居者に不安を与えない様、引継ぎを行っています。採用時にはケアーに適した人材を優遇しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部への研修には、職員が交代で参加し、研修で学習したことは、口頭や文書にして報告し、共有するようにしています。</p>	<p>今後も、積極的に研修や学習に参加することにより、サービスの質の向上を目指して行きたいと思っています。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他グループホームとの交流を通して、意見などを聴き、サービスの質の向上を目指しています。</p>	<p>同業者との交流をもち、意見や経験を聴き、事業所としてサービスの質をもっと向上させて行きたいと考えています。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>現場の介護員の声に耳を傾け、考えを理解するように心がけています。休憩を交替で取り、リラックス出来る場を設けています。</p>	<p>年に数回ある職員の交流会などで、職員間の交流を深めていくことにより、ストレスの軽減される様にしています。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の努力や成果を認め、前向きに仕事に就いてもらえる様に考慮しています。</p>	<p>向上心をもって働けるよう、今後、手当金など考慮したいと思っています。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前面談の際、ご本人から生活状態を傾聴して、今後、必要な事を考えるようにしています。</p>	<p>ご本人の、現在の想いを受け止めるように努めています。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご本人とご家族が何度も来訪して決め、これまでのご家族の苦労や不安を聞き入れ、状況を把握して安心して入所が出来る様に努めています。</p>	<p>家族の介護に対する想いを、よく傾聴するように努めています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人と家族と、事前面談によって状況を見極め、家族の要望を把握しながら支援をしています。		対応が難しいと判断した場合は、他のサービスも視野にいれ相談に応じています。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学をして頂き、どのような場所で生活をしていくのかを、ご本人に見て頂いています。また、入居前に季節の行事にも参加して頂いたりしています。		事前に何度でも見学して頂き、ご本人が安心感をもって生活して行ける様に考慮しています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者は人生の大先輩であるので、培って来た経験を聴いたり、教えて頂き、学びながら支えあう関係を築いていける様、努めています。		毎日の会話や行動から人生を感じとり、安心した生活が送れる様に支援しています。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人の状況を常にお伝えして、家族と共に支援していく様に努めています。		ご家族に希望を聞きながら、意向もお伝えして、ご本人にとって最善の支援をしていきたいと考えています。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事などに参加していただいて共感し合いながら、ご本人の想いや状況を把握し、より良い関係を築いて行ける様に心がけている。ご家族の訪問や外出、外泊を勧めている。		疎遠になっているご家族に対しては、年に数回発行の「ことぶき新聞」を送ったり、ご本人の生活様子をお伝えしています。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の、馴染みの美容室や整骨院に行く援助をしたり、ご家族に協力をして頂いています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員は入居者同士の係わり合いを見守り、時には会話に加わりながら、入居者同士の関係が円滑になる様努めています。		日々の会話やレクリエーションを通して、入居者同士の関係が、より良いものになる様支援して行きたと思っています。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後も、家族が連絡や来訪してくださる事が多く、継続的に関りをもっています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの真意を見極めて、職員同士で情報共有し、その人らしい暮らしをして行ける様に努めています。		意思疎通が困難な方には、表情から真意を察して支援しています。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族などに、以前の生活歴や暮らしぶりを聞き、ご本人の話からも支援に活かせる様に努めています。		知人、親戚からの情報も伝えてもらい、それらを蓄積しながら支援して行きたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活リズムがほぼ安定しているので、一日の行動や体調の変化を見極めて、現状を把握する様にしています。		一人ひとりの、出来る事やしたい事を把握して、職員が先にしてしまわず、手を出さずに見守りに配慮したいと考えています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族の情報、意見を十分に活かして、ご本人の思想を見極め、職員全員でカンファレンスを行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居者の、心身の変化や実情に応じて、プランの見直しをしています。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者の変化や実情は、個々のケース記録に記載し、毎日のミーティングで報告されたり、職員間の情報交換により実践しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族との旅行や外出などの外出支援、医療機関への通院、夜間救急なども柔軟に対応しています。		季節に応じたプラン(お花見、いちご狩り、ぶどう狩り、紅葉狩り)やドライブ、買物、散歩などを積極的に実行しています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署と近隣の方の協力により、消火訓練、避難訓練を実施しています。		周辺施設への外出活動は実施していないので、体調や状況に合わせて、公民館活動などにも参加して行きたいと思います。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービスの活用支援は特にしていないので、必要に応じて取り入れたいと思います。		旭川市の保健福祉サービスや、社協のボランティアのサービスを利用して行きたいと思います。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	豊岡・東旭川地域包括支援センターや、東光・千代田地域包括支援センターとは、情報交換をして協力関係を築いています。		中央地区包括支援センターとも、連携を図りたいと考えています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所前からのかかりつけ医や、家族の希望する医師に受診し、ご本人が安心出来る様に配慮している。診療後には、家族に診断結果を報告し、介助職員は受診結果をケース記録に記載して、職員全員が共有しています。</p>		<p>緊急時の医療機関の選定を、家族と相談をしております。</p>
<p>44</p> <p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症の専門医に定期受診している方もおり、投薬指示、助言を仰いでいます。</p>		<p>認知症の専門医に受診が必要と思われた時には、家族に相談し、必要な支援をしています。</p>
<p>45</p> <p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>協力医療機関は、24時間対応可能になっていて、指示を仰いでいます。</p>		<p>施設長や管理者に報告、連絡、相談、を仰いでいます。</p>
<p>46</p> <p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>医療関係、家族との情報交換や現状の確認を行い、早期に退院出来る様に協力しています。</p>		<p>施設長や管理者に報告、連絡、相談、指示を仰いでいます。</p>
<p>47</p> <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化に伴い、ご本人と家族の意向を確認しながら、医療行為で入院が必要となるまで介護を支援しています。</p>		<p>終末期、重度化に対応しない事業所ですが、家族の意向を確かめて、日常の健康管理と急変時に対応しています。</p>
<p>48</p> <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>終末期、重度化には対応しない事業所です。</p>		<p>将来的には、体制を整えて支援する様に、取り組んでいきたいと思っています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他の事業所に移られたときには、先方の担当者に、ご本人の詳しい支援状況やケアプランを渡しています。</p>		<p>他の事業所へ移られる場合は、ほとんどがご本人の意思ではなく、ご家族による都合や当事業所での生活困難による事であり、今までの生活が損なわれない様に情報提供を心がけている。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個々の考えを尊重し、自尊心を傷つける事なく、思いやりの気持ちを持って接する様に心がけています。プライバシーに配慮する事は常に認識しています。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>レクリエーションや作業の希望があれば即実行をしています。買物や散歩等の希望には、一緒に外出をし、買物の希望には必要な物を選ぶ様に配慮しています。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのADLにあわせ、居室で趣味を楽しんだり、ゆったりと新聞やテレビを観たり、作業をしたりとQOLの向上を目指し支援しています。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入浴時には、着替えの準備を一緒に考えながら用意をしたり、行事の時には和服を着たり、アクセサリーをつけたりその場に合わせた楽しみをしています。訪問の理美容が毎月定期的に来て、希望者は利用したり、馴染みの美容室に出かける方もいます。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事のメニューは、好みを聞いたり下準備の手伝いをしたり（もやしの芽取り、芋の皮剥きなど）、菜園の野菜採り、食後の片付けなど一緒にしています。</p>		<p>職員と共に簡単な調理をする時間を設けて、その事により入居者の自信につながる様にして行きたいと思っています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	たばこは、一日2～3本の喫煙者があり、場所を決め楽しんでます。おやつは家族が持参した好みの物は、ご本人の食べたい時に食べてもらっています。		飲酒は家族も希望をしていないので、現在はおりません。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を促がしています。オムツから切り替え、パッドの使用での支援をしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間が決まり週2度の支援となっておりますが、個々の利用時間、お湯の温度などの希望で入浴を楽しめる様にしています。また、身体の清潔の保持、感染の予防、皮膚の変色、怪我の有無などの観察をしながら支援しています。		入居者の自己決定による入浴が、可能になる様な勤務体制に取り組んで行きたいと考えています。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	寝付けない時には、添い寝をしたり、お話をしたりします。夜間起きて寝付けない場合など、状況に応じて介護員の側のソファで安眠出来る様に支援しています。		就寝前に夜間の不安が軽減できて安眠出来る様な支援をして行きたいと思っています。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	出来る力を発揮し（おはぎ作り、漬物の作業）、自信を持って楽しんで参加してもらえる様な取り組みをしています。		出来る出来ないを判断せず、入居者が興味を持って参加出来る様な声かけをしています。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買物外出をして、好みの物を選べる様に支援しています。		買物時に現金を所持して、ご本人が支払する様に支援しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には、外でお茶を飲んだり散歩をしたり、外に出て過ごす時間をとり、気分転換をしています。		冬期間の外出が少ないので、体育館や施設活動を取りいれて行きたいと考えています。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	四季を感じてもらえる様に、春はお花見、秋には紅葉狩りなど、弁当持参で出かけて生活にハリをもって頂ける様にしています。他にいちご狩り、ラーメン屋での外食も行っています。家族と温泉に出かけたりして楽しんでいます。		職員との温泉行きなども実行したいと考えています。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご本人の申し出や、気分転換になる時は、家族に電話をかけて安心してもらっています。		6名の方が個人電話を設置されていて、家族とも連絡をとっています。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族の訪問時には、生活様子や出来事をお知らせし、お茶の接待をかかさず、さりげなく間を取り持ちながら、いつでも時間を気にせず訪問出来る様に、声かけをしています。家族が地方から来訪の場合、何日でも宿泊を歓迎し、食事を共にしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が拘束の内容と弊害を認識し、拘束しないケアを心がけています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	開放している時と、気配によって施錠の時もあります。個々の立場になって考え、日中は開放する生活を支援したいと思います。		施錠によっての拘束が無い様に、玄関にセンサーを設置し開放しておき、外に出たい入居者の行動を把握し傾聴し、不安のない生活を過ごせる様にして行きたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜共に、見守りしやすい位置におり、全員の状況を把握する様にしています。夜間は定時巡回と随時巡回（気配、水の音、物音）をして安全に配慮しています。		昼夜ともに、入居者の様子を察知出来る様に配慮しています。（気配、水音、足音、カーテンの音、咳、くしゃみ）
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	居室に有る薬、洗剤、刃物などの管理に充分配慮し、危険防止に努めています。		入居者の状態を十分に把握しながら管理し、使用時には、見守り介助しています。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態から予測される危険を察知し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいます。		日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っています。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	特に夜間帯における急変、事故対応についての応急処置、救急救命処置を行うと共に、救急隊要請、上司と家族への連絡体制をとっています。		定期的訓練は、規定に基づき随時行っています。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	昼夜問わず、いざという時に慌てず避難誘導が出来る様に、普段から心構えをしています。日頃より地域住民の協力を得られる様にしています。		消火訓練、避難訓練は、南消防署指導により地域住民近隣と連携し、協力を得て実施しています。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	家族との信頼関係づくりは普段から築いており、起こり得るリスクについても率直に話し合っています。見直しも随時おこなっています。		状況変化に対応した説明をいつも心掛けています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>一人ひとりの普段の様子をよく知り、常に変化や異常の発見に努め、兆候に気付いたら速やかに報告、記録するとともに、状況により医療につなげる対応をしています。</p>	<p>常に顔色や様子に注意し兆候を見落とさない様に注意を払っている。(バイタルチェック< 血圧・体温・脈拍 >) 記録</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の内容を把握しています。服薬ファイルの整理をし、服薬時は本人に手渡して服薬を確認しています。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>下剤を用いている人もおり、予防として食材の工夫(繊維質・乳製品を採り入れている)をしたり、日常生活で散歩など身体を動かす機会を多くしています。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>日頃より心掛けています。個別に介助声掛けをしています。</p>	<p>毎食後、口腔ケアの声掛けをしたり介助を行っています。就寝前は義歯の洗浄を行っています。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事の栄養や水分の摂取状況を、毎日チェックし表に記録。1日に摂取すべき水分最低必要量 1,300ml/日 を管理しています。</p>	<p>一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら栄養のバランスを配慮しています。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>ノロウイルスの感染予防など、国・道・市などの通達に基づき機会教育を実施しています。インフルエンザ予防接種は、入居者全員接種、職員は任意にて接種します。</p>	<p>インフルエンザ予防接種(20.10.15～21.1.31)まで支援。ノロウイルス対策をしてペーパータオル使用しています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎日の調理用具等の衛生管理を徹底し、新鮮で安全な食材の使用をしています。</p>		<p>台所、調理用具の清潔、衛生管理方法取り決めあり、実行中。まな板、ふきん等漂白し、清潔を心掛けている。計画した食材の買物、食材の残り物は鮮度や状態を確認し、冷凍したり、処分したりしています。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>明るい雰囲気のある玄関になるように、テーブルの上には花を生けたり、玄関先にはプランター置いたりして季節感を楽しんでいます。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>娯楽室には畳みがあり、くつろげる雰囲気になっています。フロアの飾りつけは利用者の方が手作りで飾っています。</p>		<p>春夏秋冬でその時季の行事を行い、季節感のある物を活用したいと思います。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>娯楽室で利用者同士会話をしたり、新聞・テレビを観たりして過ごしています。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家庭で使用していた物の持ち込みをお願いして、安心して過ごせるように、写真や使い慣れた日用品を部屋に置き、居心地のよさに配慮しています。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>トイレは消臭剤で悪臭が出ないように工夫しています。部屋の温度を確認し、窓を開閉して調節しています。</p>		<p>外気との温度差がある時は、室温管理と入居者の様子を見ながら調整しています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>身体機能の変化等に考慮し、利用者の現在の状態に応じて生活できるよう工夫しています</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>食堂の座る場所、椅子の位置で、不安や不満がおきない様に配慮しています。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>身体機能の低下に伴い、外出が困難な入居者にも、東側パーキングでテーブルを囲みお茶を飲んだり、外気浴を楽しんでもらっています。</p>	<p>天気の良い日には、屋外で食事が出来たらよいと思います。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>その都度、要望などがあれば話し合い、できるかぎり利用者さんの要望や思いを聞き入れている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>利用者さんと共に会話などを楽しみ、のんびりとした時間が流れることもある。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>一人ひとり、自分のペースの中で暮らし、楽しんでいる。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>毎日の生活の中でできる範囲の目配り気配りを心がけている。生き生きと明るい表情や姿が見られる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>天候良好の日など、散歩、買い物、戸外でのお茶飲みを実施。また祭りや食事に出かけることもある。(上川神社祭・ラーメン外出など)</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>定期受診をはじめ、不調がみられた時など医療機関への報告・連絡を行い、緊急時の対応も敏速に行っている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>状況や要望に応じ、支援を行い、安心して生活している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>家族さんとのコミュニケーションを大切にしている。要望・不安な事など伝え合い、信頼関係は出来ていると思われる。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>グループホームの行事や避難訓練など町内会・近隣の方々との交流があり、助け合っている。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	推進会議・構成員・地域町内の方との関係が深まり理解者や応援者が増えている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	笑顔を絶やさず、元気に、生き生きと働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	日々の生活を通し、利用者さんの表情などを見ているとおおむね満足しているものと思われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	報告・連絡などこまめに行い、信頼関係は出来ている。おおむね満足されていると思われる。
【特に力を入れている点・アピールしたい点】 (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)			
<p>季節の行事・催事・外出・ドライブ、また春先から秋口にかけて、自家野菜(トマト、なす、きゅうり、枝豆ほか)を作り、草花を育て、手入れをして利用者さんも参加してもらいながら生活を楽しくしていきたい。</p>			